

一般社団法人日本サンゴ礁学会
2023/24 年度 第4回理事会 議事録

【日 時】 5月30日(木) 18時～20時
【場 所】 Zoomによるオンラインミーティング
【参加者】 会長 : 中野義勝
理事(6名): 学会誌担当理事 : 波利井佐紀
 広報・社会連携担当理事 : 中村隆志
 学会戦略・国際連携担当理事 : 渡邊敦
 サンゴ礁保全・調査安全担当理事 : 菅浩伸
 庶務・会計担当理事 : 木村匡(欠席)
 大会担当理事 : 山下洋
監事(2名) : 野中正法・宮本育昌
事務局長 : 水山克

- 【議 題】 ●報告事項
- (1) 事務局移転について(木村、代理水山)
資料の説明。
⇒事務局と理事の連携強化が指示された。(会長)
 - (2) 学会誌編集委員会(波利井)
雑誌編集の実施、和文誌論文賞の検討状況、委員選任に関わる細則等の見直しについて報告があった。
(意見) 委員選任については対照表を作成し整理する。和文誌投稿数増加対策について、外部の専門家への寄稿依頼や、教育普及啓発委員会と連携し、最新研究手法紹介等の企画を掲載してはどうか。学会戦略委員会で和文誌冊子体の継続を検討するに先立ち、経費の資料を提供する。
 - (3) 選挙管理委員会(木村、代理中野)
資料の説明。500名の規模に合った制度を再検討すべき。代議員数の定数削減(12名)、将来的には代議員制度の廃止。総会制度の課題は成立と合意形成であるが、リマインドと委員会での調整で解決可能か。段階的な変更も検討。選挙管理委員会
(意見) 学会戦略委員会が議論を先導するのがよい。定員数は過去の有効得票数を基にして検討すべき、%による流動的な表記も可能。定員数以下の投票でも構わない。分野の区分について、希少な分野から選ばれるかが心配。
⇒定数削減について承認された。選挙管理委員会に委嘱。
 - (4) 賞委員会(木村、代理中野)
資料の説明。学会賞の副賞を検討しているが、予算的に難しい。
⇒学会副賞は賞員会ではなく理事会で検討することが承認された。
 - (5) 広報委員会/教育・普及啓発委員会(中村)

資料の説明。引き継いだ昨年度の本委員会の報告資料に「図説サンゴ礁の世界」の編集予算として20万円の計上を要望する旨が書かれていたが、実際に本年度の予算として計上されているか確認が必要→「図説サンゴ礁の世界」の編集予算は今年度予算として計上されていない。(水山)

(意見)「図説サンゴ礁の世界」の印税収入が委員会事業から派生しているのがよい。当初の議論で20万円の予算は、挿絵の外注等を見越して計上した経緯があったが、実際に外注等が発生したかが不明。→会員への説明が果たせるようにすべき(会長)。Youtubeリンクは教育普及啓発委員会で報告書経由での限定公開。

(6) 大会引継ぎについて(山下)

資料の説明。要旨集のオープン化は代議員総会が必要か不明。

(意見)宮崎大会の日程・場所をHPに載せてほしい。事務局と広報委員会で作業を協議→(山下)。要旨集のオープン化にかかる統一したフォーマットを大会担当理事中心に検討。要旨集送付にかかる会員サービスの検討も必要。大会会場の東西交互制は廃止したわけではないが、引受先が見つかるのであれば優先している。沖縄過多の状況は避けたい。

● 審議事項

(1) 大会要旨の公開(山下)

著作権について情報収集が必須。

和文誌に要旨を載せる案は、印刷媒体は予算的に難しい。

HP上で一定期間を設けて公開、公開の可否を著者に確認する。

過去の要旨集は公開を前提に収集していないため、遡ることはしない。

現在の発表資料取り扱いルールに則ると、誰も使用ができない状況で改善が必要。

⇒公開に向けての整理を大会担当理事中心に進めることが承認された。関連学会の要旨取り扱い情報を各理事が収集して大会担当理事に共有する。

(参考)要旨集に掲載されている発表資料取り扱いルール(抜粋)

(一社)日本サンゴ礁学会第26回大会 発表資料の取扱に関する基本ルール

以下に、講演・ポスター等資料の取り扱いに関する基本ルールを示します。

大会の招待URLパスワード、要旨集、研究発表や自由集会などの各種イベントにおいて参加者へ提示されるスライド、ポスター、映像、音声などのすべての資料を対象とします。

1. 参加者が、発表者の承諾なしに、口頭発表およびポスター発表の写真撮影、画面の静止画保存、録画、録音を行うことを一切禁止します。また、発表者の許可を得て発表資料を保存した場合でも、

他の参加者や非参加者に開示・配布したり、ウェブ上や SNS 上に公開したりすることを禁止します。

(2) 協賛の引き受け (中村)

依頼者：クロステック マネジメント+「和の響き」プロジェクトメンバー

依頼内容：「日本サンゴ礁学会×和の響き連携」のご相談

(1) 広報の連携

(2) 珊瑚に関する研究・知見に基づくアドバイス・監修

(3) プロジェクトムービー制作の資料や素材の提供

クラウドファンディング達成時は学会へ1%の寄付

(懸念事項) 養殖事業で発生した死サンゴ礫の商品化→商品材料の骨格を生産するための養殖事業ではない。(依頼者からの回答)

地球温暖化によるサンゴ礁減衰の抑制を謳って、養殖に失敗したサンゴを利用するのはミスリードではないか。→養殖事業自体がサンゴ礁減衰の抑制を目的としているなら、死サンゴ礫の利用についても説明可能。

(意見) 広報=情報発信の仕方・表現方法について、助言すればよい。資金源としても魅力的。養殖して死んだサンゴは配慮の表れかもしれない。科学的な立場からリードするのがよい。「サンゴ礁学会」の立ち位置はこれから議論されるが、「協力」を想定。クラウドファンディングでも協力者として名前が出るのが想定される。⇒中村隆志理事を中心に、日本サンゴ礁学会として連携を進めることが承認された。広報委員会にも協同を期待するが業務負担を考慮する。

(3) 寄付の受付 (木村、代理中野)

資料の説明。

⇒(案)を読み込み、メール審議で進め、HP上で寄付を募ることが承認された。

(4) 潜水安全アンケート調査の実施と要望書 (菅)

調査安全委員会で職場環境を含めた詳細なアンケート調査(案)が作成されており、出口を検討中。組織(職場環境)の改善を要求する根拠資料が必要。

(意見) 委員会に差し戻し、問題意識・現状改善についての学会としてのメッセージを検討して欲しい(会長)。大学における責任体制、管理監督責任者、労働安全衛生法違反に伴う罰則、学生を含めた作業者の高圧則の理解度、改善が必要な対象を明確にする必要がある。アンケートの背景が理解しづらい。問題が公になると、潜水作業の制限・外注に発展する可能性が考えられる。潜水作業の制限はJAMSTEC・九州大学でも既に生じており、潜水作業ができる次世代の育成が危機的状況にある。

⇒調査安全委員会を中心に、学会全体で進めることが承認された。
シンポジウム情報を学会 HP へ掲載する。

(5) 大会開催地 2026 と東西割振 (中野)

報告事項 (6) と重複するが、明文化されていない慣習であり、現在は意味を成していない。円滑な大会運営のため、東西割振の縛りは不要である。

⇒これまでの慣例は「意識する程度に留める」ことが承認された。

(6) 日本学術振興会育志賞推薦 (中野)

若手にとって最高峰の賞である。学会の推薦が必要であるが、推薦基準について議論が必要である。

(意見) 客観的な基準が必要。賞委員会の範疇は学会内部の賞であるが、外部団体の賞についても含めるよう議論が必要 (中野)。

⇒所掌理事が庶務担当理事であるかどうかを確認した上で、作業委員会の検討および基準の策定を進めることが承認された。

(7) 台湾珊瑚礁学会との連携 (中野)

連携の形は今後検討する。

(意見) 台湾珊瑚礁学会から具体的に何を求められているのかを知りたい。

⇒理事会で共有して進めることが承認された。

(8) 戦略委員会開催 (中野)

夏の間一度開催する。結論は時間がかかるので、議題を挙げることから始める。

(意見) 議論すべき内容は、代議員制度、和文誌冊子体の継続有無、寄付・協賛等の経営改善など。若い世代が享受する学会員としての利益について検討してほしい。

⇒メールを中心に、中長期的なビジョンを作成することが承認された。

(9) 「工芸×三線×白化珊瑚プロジェクト」との連携の可否

審議事項 (2) と重複につき取り下げ

(10) 大会アブストの公開の可否

審議事項 (1) と重複につき取り下げ

(11) 大会参加登録の締め切り日や参加登録方法、大会のスタイル (パレルの可否など) (中村隆志)

形骸化した慣習に基づく煩雑さや機会損失を軽減したい。

・大会の参加登録と要旨の提出の時差をなくし、参加登録・要旨提出の時期を 10 月初旬から中旬にした方がよい。これまで、9 月中旬に参加登録があったが、これは通常は大学では夏季の野外調査や実験の期間であり、野外調査や実験の成果が出る前に登録を行わなければならない、登録を見合わせるケースがこれまでも見られた。また、登録と要旨の提出の時期をずらすことは 2 度手間なだけで現在は運用上のメリットは無い。

・1会場制により、口頭発表のスポットが足りず口頭発表からポスター発表に移動せざるを得ないケースが散見され、学生の口頭発表の機会損失が生じている。

(意見) 現状、NL11月号に大会プログラムが掲載されるため、その編集作業に合わせて大会実行委員がプログラム編成を行う必要がある。NLにプログラムを掲載しないことにすれば、参加申し込み締め切りを後ろ倒しにすることは可能。会費ペイによる参加費収入は1カ月遅れるため、8月末の事前登録を後ろ倒しにすると、会計年度が替わる。大会参加人数が増加し、口頭発表からポスター発表に移ってもらうケースが毎年みられる。2会場制であれば発表形式の変更をお願いすることはなくなるが、会場費用や実行委員の負担も考慮する必要がある。

⇒継続審議を行うことが承認された。

(12) その他 なし

上記の決議を明確にするため、この議事録を作成し、代表理事及び出席監事の全員がこれに記名押印する。

令和6年5月30日

一般社団法人日本サンゴ礁学会理事会

代表理事 中野義勝 ⑩

出席監事 野中正法 ⑩

同 宮本育昌 ⑩